

電子複写不可

0720

紙
質
特
選

昭和五十六年三月

防空戦斗詳報

(沖繩本島北西方面)

第五六飛行団大

防衛科通信所戦



紙
2700-4
1

防空
本土周辺
55

本



2160

逐卷决

原本

一、二、二

封定就斗译版

昭和二年
斗且十六
(仲儀本島北形力場)

紙 2100-4
1.

8020
6

12/16

RS 95396
Cincpac-Cincpac
B- 2 7266
OKINAWA 24 JULY

24015

戰
闘
詳
知

昭和二十年一月二十日

軍事極秘

WD# 1347

56 ab

本島に飛来す

と推定

伊勢

一 戰前於此彼我形勢概要

敵、絶對的制空權ヲ奪取スルヲ遂ニ南支那海及バ

三、海峡方面ニ二及至三機動部隊ヲ侵入セシ其

艦載機ヲ以テ一月十日以降佛印南支及台灣

我が補給基地ニ對シ連日如ク來襲以テ補

給基地覆滅ト補給遮斷ヲ策メ地纜本島亦

一月三四日、西日ニ亘リ敵艦載機(グラマ)戰闘機

ヲ主トシ、來襲ヲ見ル又十日以降南西諸島ニ

全般ニ亘リB29又ハB24一機ヲ以テ連日來襲偵察ニ

2 爾後ルニ島ノ戰局遲々進ミテ進ニ其焦慮極ニ在

リタル敵ハ雨ニ一月十日其機動部隊ヲ台湾東岸海面ニ現出セシタルヲ如ク二十一日台湾各基地先島及本島ハ其艦載機ヲ攻撃ヲ受ケタルモ果敢ニ我々制空部隊ヲ反撃ヲ受ケ一旦退避セリ

三十一日ニ「ロ」宮古島敵機ヲ攻撃ヲ受ケシマリトノ情報ニ接シ機動部隊ハ本島ニ進迫翌二十二日於ケル未獲心至ト判斷シ部隊ハ直ニ重要諸資材ヲ總テ洞窟内ニ格納スルト共ニ駐留飛行機特機體及土壘掩體内ニ收容徹底の偽裝並ニ燃料抽出ヲ實施被害極限最善處ヲ講ス

又部隊ハ「ロ」南西空襲及一月三四日空襲ニ鑑ミ二十日迄銳意左記工事ヲ促進鞏強ナル航空基地設定ニ邁進ニアリ

1. 飛行機ハ通用誘導路設定
2. 燃料彈藥、徹底の掩護施設
 - (1) 燃彈地下格納、為洞堀作業
 - (2) 飛行場週辺露出掩體ニ在リテハ一ヶ所燃料「ロ」本トシ且百米ヲ隔ス
3. 飛行場全般、偽裝

五十一日夜ハ拂曉ニ於テ奇襲攻撃ヲ考慮ニ至嚴

ナル警戒ヲ實施シ警戒急態勢ニ任リテ夜ヲ撤ス

6 明レバ二十三日先ヅ五〇朝昼ニ食ノ炊爨コト了シ

六三〇對空戦闘部署ニ就ク

對空監視哨ヲ引續ニ全員ヲ以テ立哨至嚴正警戒

ニ任ジアリタリ

フ六三五空襲警戒發令マシ敵大編隊本島ニ近接

シツアルヲ知リ遮蔽偽裝ニ徹シ戦闘準備完

壁ヲ期シ待機中六四五敵機四機東方ヨリ飛

行場上空ニ侵入我ガ火砲亦一齋ニ砲門ヲ開ク爾

後一三〇ニ至ル間敵ハ五次ニ且来襲ス

二 戦闘ニ影響ヲ及ボスル氣象地形及住民地狀況

氣象狀況

日出 八時
日没 八時

天候ハ晴天ニシテ飛行好適風ハ西北ニ米程度雲

高ニ〇〇米ニシテ視度良好ナルモ白雲點々トシテ散

在ニ在リ特ニ一〇〇以降逐次雲量ヲ増加シ敵ハ

好シテ雲上ニ出テ間隙ヲ利用スル偵察並ニ攻撃ヲ

實施ス 夜間月齡五九ニシテ輝痕補修作業

實施ニ無燈ハ雖々何等支障ナク狀況ニ任リ視度

亦日中平均一六三度夜間平均十三度ニテ快適

活動氣温タリ

2. 地形其他

飛行場北方並_ニ東北方_ニ夫_ノ標高一三二米空喜
味城趾及標高一_三高地_ノ外戰鬪行動_ニ塔_ノ支

障_{ナシ}

西方_ノ直_ニ海_ノ岸_ニリ_テ為敵機_ハ殆_ト東_ノ方_ニ至_ル
北_ニ書_ニ侵入_ル攻_ク擊_ク後_ハ必_ズ西_ノ方_ニ海_ノ面_上ニ_テ避_ク退_セリ

又部隊_ハ諸_ノ工_事實_施為_シ勤_勞奉_ル隊_其他_ノ勞_務
者_約三_百餘_名ヲ_テ我_ノ平_部落_シ今_宿マ_シ使_用ス

タル_ニ敵_ノ求_ル襲_ト共_ニ直_ニニ_テ甚_ク士_官以_テ下_ノ所_要ノ_實
ニ_テ意_求ル_ニ有_導ス_也タル_ニ結_束ス_ル公_相也

何等事無_キヲ_得タリ

三敵兵力裝備素質戰法

兵力

敵ハ總テ艦載機ニテ飛行場上空ニ現出ル總延機數四五〇機ニ達スリテ機種ハ左ノ三種ナリ

戦闘機 F6F (ヘルキャット)

爆撃機 SB2C-1 (ヘルカッター)

雷撃機 TBF (アベンジャール) 偵察機トシテ使用

2 裝備

機動部隊距離相當ニ近接スルニテ、如ク敵各機種共全裝備ヲ以テ未裝ニナリ

3 素質

TBFハ何等攻撃ヲ實施シテラス裝備不明ナリ

敵操縦者飛行機操法ハ、南西空襲ニ比シ格

FL6Fハ主トシテ砲撃ヲ實施シ口径八一・三七糎及二〇糎ノ二種ニシテ一三七糎其殆ト大部ヲ占メリ時トシテ五〇糎級又ハ夕彗「約一〇〇一ニ箇ヲ格納ス」何レカ一ヲ携行スル事アリ

SB2C-1ハ爆撃並ニ砲撃ヲ實施シ携行爆彈ハ一〇〇糎級及五〇糎級ニシテ時トシテ二五〇糎級及夕彗ヲ投下

シタル事アリ

我、差異アリテ操縦並ニ戦闘經驗少キモノト判斷
 マラル又攻撃精神等ニアリテモ我ガ對空射撃ヲ
 受クルヤ直ニ編隊ヲ亂シ又ハ退避スル等充益シ
 アラズ動作又退嬰的ニシテ退避脱去シ之汲々
 タル狀況ナリ

4 戦法

11) 太陽並ニ雲等ニ氣象ヲ利用スル攻撃ハ相當徹底
 シアルモノ如ク攻撃ヲ加ヘタルモノ大部ハ本戦法ヲ採
 用シテリ一部地形特ニ東北方山陵地帯ヲ利用
 超低空ニ侵入セルモノアリ

11) 一編隊ノ攻撃ニオリテハ數方向ニ且重疊的ニ二層
 編隊ヲ以テ掩護並ニ制空ニ任ジテアリタルハ前同
 様ニシテ敵ノ物量誇示戦法ニナルベシ

12) 目標物選擇ハ飛行機ノ露出セルモノナク大部ガ掩護
 内ニ收容マラシ且分散偽裝マラルヲ爲之ヲ攻撃スル
 コトナク特掩護對空射撃部隊燃料集積所等
 ヲ攻撃目標トセリ

但シ SB2C-1 一編隊(四機)及 PB6機ハ二次ニ且比較的集
 結シタル爲飛行機群ヲ攻撃セルハ絶体的制空圏
 下尙目標確認不充分ナルヲ曝露セルモノニシテ敵塔

乘員、素質低下ヲ物語シ、證作ナルベキ爲飛行機
活用ハ其効果ハナルマナリ

一 爆撃要領並ニ精度

連續單機急降下攻撃一降下角五〇度以下投下高度

五〇一〇〇〇米ニシテ同時投下ヲ主体トシテ其精度

ハ極メテ悪ク、一〇〇〇南西空襲ニ比シ一級遜色ナルヲ

認ム

四 戦闘經過概要

一 敵ハ當時二、四機ヲ以テ飛行場上空ヲ制空シ、其間

五次ニ且リ執拗ニ反覆攻撃ヲ加ヘタリ

入狀況附圖第一如シ

ニ各時期於テ戦闘經過概要左ノ如シ

敵機侵入後第一次攻撃迄 (〇六四〇、〇七二〇)

〇六三五空襲警報發令ト共ニ部隊ハ左ノ如ク戦闘配

備ニ移行ス

山本部指揮機關

主力ヲ以テ戦闘指揮所附近ニ集結待機ス

四) 補給中隊

一部ヲ以テ對空射擊準備ニ主カ、兵舎附近ニ在リテ
露營地ニ全般警戒ヲ兼テ待機ス

三) 警備中隊

一) 一般小隊

直ニ飛行場東北側ニ高地附近ニ設陣地ニ就

キ對空戰鬥ヲ準備ス

二) 高射小隊

六ヨ以降全員對空戰鬥準備ヲ完了シマリ

二) 通信班

通信線確保ヲ為保線準備ヲ完了各交換所

ニ集結待機ス

三) 經理班

昨ニ十日未龍狀況並ニ情報ニ基キ今日アル豫期

ニ既ニ朝食ニ食、炊爨ヲ完了シマリ

六四五敵機ハ三機ハ東方ヨリ侵入高度ニ五〇〇

ヲ以テ飛行場狀況ヲ偵察シマリ我ガ高射砲亦一齊

ニ砲門ヲ開テ

六七〇機ハ八機ハ西方ヨリ侵入座喜味城趾ヲ

中心トシテ旋回シマリタルモ東方喜名上空ニ於テ突如

2 第一次攻撃後第二次攻撃迄(マニロー1035)

又轉急降下ヲ以テ飛行場北端高射機関砲陣地
並ニ特掩體群ニ對シ砲撃セントス
對空射撃部隊ハ猛烈之ニ奮射撃ヲ加フルマ
敵ハ攻撃ヲ中止急據西才海上ニ脱去ス

戦果 ナシ

射撃 一〇式或光自爆榴彈彈藥筒 五五發

2 同 代用彈 六〇發

3 三八式小銃實包 三一四發

一時西才海上ニ退避マル敵ハ更ニ新手ヲ加ヘ雨ニ上空ヲ
制空警戒ニ任ジアルモ、如ク其數三十有餘ニ上リタ
ルコトアリ

警備中隊主カヲ飛行場北側ニ陣地変換マシム
此間通信狀況良好ニ確保マレタリ

親志燃料彈藥集積所亦異狀ヲ認メズ

一〇三五五四機單縱陣トナリ海上ヨリ迂回雨ニ喜名上空
ヨリ森林ヲ利用超低空ニテ特掩體群ヲ砲撃マント未
襲ス 對空射撃部隊ハ全カヲ以テ猛射スレバ一番
機ハ機関部ヨリ火ヲ發シ紅蓮、焰眞黒機體ニ映ヘ

一入物薄シ断水魔、敵機ハ北方ニ反轉離脱マシ
タルモ更ニ我ガ注打猛撃ヲ受ケ高度漸次降下シ遂
ニ北方海面ニ真白キ水煙ヲ擧ゲ墜落スルヲ望見ス
部隊編成以未最初敵機撃墜ニ全員快哉ヲ叫ブト
暫志氣ハ昂ル本攻撃於テ我ガ才損害ナシ

戦果 撃墜 一機

射耗輝 一式曳光自爆榴霰彈藥筒 一五發

2 同 代用彈 四發

3 三八式小銃 實 包 六發

3 第二次攻撃後第三次攻撃迄(一〇三三-一三三)

敵機ハ依然執拗ニト空ニ在リ三機東去ハ南ニ西去三機
南ニ去ルコト見レバ更ニ北ニ爆音近接ヲ聞ク白雲漸ク其
量ヲ増シ悠々北ニ流ル高約一〇〇〇 敵機ハ巧ニ雲ヲ
利用爆音ヲ聞クニ機影ヲ見ケルコトナリ 敵ハ我ガ猛射
ニ怖ラルカ旋回シニテ更ニ攻撃シ来ラズ部隊ハ悠々
態勢ヲ整ヘ次回戦闘準備ニ遺憾ナシ
一三三〇高度約ニ五〇〇ヲ以テ那霸方向ヨリ北上スル
一六六ノ上ハ機ヲ見ル飛行場西方約一〇〇〇米ヲ依然北
進ヲ續ケ伊江島ニ向テ見マ雲上ニ於テ東ニ轉針喜

SB20-1

名上空ニ於テ反轉ニ群ニ別レハ機體群ニ一ハ爲飛行
 機群ニ向ク縫糸急降下突撃態勢ヲ出ス時ニ三四〇
 ナリ一瞬ニシテ爲飛行機週邊ハ滾々タル爆煙ニ包
 正特機體群ニ對シテハ二機編隊ニ以テ未獲アリ
 敵ハ例ノ如ク太陽ヲ背ニシテ攻撃シ未ダ射撃困
 難ニシテ惜シクマ第一編隊ヲ逸ス我ガ才全火カヲ第
 一編隊進入才向ニ指向待機ニル時愚カシク敵ハ周
 〇高度ニ五〇〇降下角四五度同一徑路ニ以テ突進シ
 来ル好機未トリ我ガ對空射撃部隊ハ之ヲ完
 全ニ火網中ニ捕足シ火光ノ内ニシテバノ光帯一糸中先

頭機ハ左石ニ動遙命中ニ事確實ナリ
 射機彈ハ一式或光自爆榴彈彈藥筒 六發
 二同 代用彈 一五發
 三三八式小銃 實包 六八發
 〇第三次攻撃後第四次攻撃迄(一三五八一五三〇)
 爆煙靜カニ東ニ流レ暫クテ消滅スルト共ニ敵機亦去
 リ爆音更ニ聞ヘズ戰場一帯動ヲ靜ニ入ル
 飛行場全體ヲ望見スル彈痕散見マテタルヲ以テ補
 修作業部署決定資料蒐集爲本部附將校

ヲニテ實地踏査マシム燃彈集積所其他ヨリ報告
總テ異狀ナシニテ損害皆無ナリ

部隊ハ次期戦闘準備ヲ救正ニ俟テ待機戦カヲ培養ス
一四五偵察者歸還ニ彈痕約一三發不發彈
亦數發アリト報告ニ據シ各隊ニ左ノ如ク不發彈處
理班編成ヲ命ズル共ニ彈痕補修諸準備ヲ促進ス

第五〇三特設警戒備工兵隊 五ヶ班

警備中隊 三ヶ班

補給中隊 三ヶ班

一ヶ班ハ下士官以下五名トス

一五〇ニ至リ研六機斬ク上空ニ現出シ戰場由ニ靜ヨリ
動ニ歸リ緊張ノ氣 颯ト 一帯ヲ蔽フ
敵ハ一旦北方雲上ニ退避後西上ニ旋回マルモ、如ク
爆音近接スルト見ルヤ突如伊良皆上空ヨリ急降
下ヲ以テ雨ニ滑走路及偽飛行機群ニ對シ砲爆
撃ヲ加ヘタル後超低空ニテ西方海上ニ脱去ス、我
方之ニ對シテハ遠距離爲攻撃實施マス
戰果ナシ

損害 更ニ飛行場ニ彈痕數發發生ス

(5) 第四次攻撃後第五次攻撃迄(一五三〇—一六三〇)

敵の南に一機ヲ以テ當時上空ヲ哨戒シ攻撃ノ目標ト好機ヲ求ムツルモノ如ク爆音ニキリナリ

敵隊ハ戦闘態勢ニ在リテ遂次彈痕補修並廓ヲ退進シマリ 一六三〇ニ至ルヤ敵機ハ突如座

喜味城趾並ニ西ノ高地ヲ超低空ヲ以テ進ハ高射砲陣地並ニ特設機群ニ對シ砲撃ヲ

手加ヘ兼ル 機群中誘引ヲ會公全火カノ集ヤ射撃ヲ美遂ニ機群ニ對シ珍ニラ長南

才及西オニ脱去ス

戦果損害共ニナシ

射撃彈 二〇式或光自爆榴彈藥筒代用彈 二〇發

二三八式小銃實包 四八發

第五次攻撃以降(一六三〇—一七三〇)

敵ハ依然上空ヲ旋回中ナルヲ攻撃ハ實施ス我亦砲側陣地就キテ滿ヲ持シテ放テズ只對空監視哨聲ニ喧シ

一七三〇時三機高度二〇〇〇ヲ以テ東ヨリ西ニ更ニ旋回後北ヨリ南ニ脱去ス

之ヲ最後敵トシテ上空爆音全ク消テ飛行場ハ斬テ

舊ニ復ス 部隊ハ一九ヨリ輝痕補修ヲ開始スヘク至
嚴正警戒裡先ツ夕食ヲ喫シ戰力ヲ培養スルト共ニ輝
痕補修作業準備ニ萬全ヲ期ス

五 戰鬥後ニ於テ部隊行動概要

一 各部隊戰鬥指揮所附近ニ集結ヲ完了セシム以テ
八隊長ヲ定ムル作業部署並ニ作業實施上細部
注意事項ヲ示シ諸器材諸材料ヲ配當シ二十三日
ハ

ハコノ成ニテ以テ輝痕補修ヲ實施セシム

之間敵ノ不意未襲ヲ顧慮シ高射小隊並ニハ全員
ヲ陣地ニ就カシメ嚴重正警戒ニ任ゼシム

二 四ヨリ滑走路誘導路補修ヲ概成ス 翌二十三日四ヨリ
全作業ヲ完成飛行場機能發揮ニシテ支障ナキ至リ
タルヲ以テ補修作業ヲ中止次期戰鬥ニ備フ 輝痕
補修ト同時開始セル飛行機偽裝徹底並ニ爲飛行
機配置変更モ亦二十三日四ヨリ終了ス